

ビオトープ



ながおか管理団体

NPO ロングヒル ネット Longhill Net (あいち NPO 交流プラザ NPO 法人等登録団体)



ビオトープながおか注水管理ボランティア募集中

NPO Longhill Net 概要

「ビオトープながおか」・稲沢市祖父江町馬飼東馬飼 50 番 1 が、完成（2011 年 4 月 20 日）以前に稲沢市役所農務課・都市計画課・祖父江支所土地改良区の皆さんから管理する団体設立要請を受けて行政との協働で市民活動団体 NPO Longhill Net が、誕生（2009 年 12 月 10 日）しました。尾張西部生態系ネットワーク協議会設立総会（2016 年 11 月 22 日愛知県環境部自然環境課国際連携・生態系グループの支援及び設置にて開催）にて尾張西部生態系ネットワーク協議会会員となる。環境省は 2023 年 10 月 25 日に企業や民間団体などの取り組みによって生態系が守られている地域「自然共生サイト」に、35 都道府県の 122 か所を認定しました。「ビオトープながおか」も選ばれました。

ビオトープの注水管理をしながら食物連鎖を阻止している人間の行為を見直して人優先の枠組みから生きもの優先への枠組みの発信を考えています。現状では、残念ながら人優先の行為が「ビオトープながおか」に時々、犬の糞放置・煙草ポイ捨て・上池や下池に園内の低木を折って投げ入れる等の形で顔を出していますので、巡回等の必要を感じています。私達は環境教育を通して将来の人材育成が時間を要してもやらなければならないと痛感しています。会員の有資格は、2 級こども環境管理士（1 名）・2 級ビオトープ計画管理士（1 名）・JVCA ボランティアコーディネーションカ3 級（1 名）です。

人と生き物の共存共栄の縮小モデルとして環境学習指導者育成のため会員が 2 級こども環境管理士の資格（2012 年 11 月 18 日受験）を取得しました。環境学習をビオトープ観察から始めてメダカ里親事業が広がり、自然環境を守る意識が、地域の全ての年代層に芽生え、環境保全に取り組む活動の礎になればと考えています。第 1 回ビオトープ生きものしらべ（園児から小学生と保護者）を 2013 年 8 月 3 日に開催（◎後援：稲沢市・稲沢市教育委員会・尾西信用金庫・祖父江支所地区まちづくり推進協議会）しました。毎年 8 月の第 1 日曜日の午前 10 時～午前 11 時を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

連絡先

代表者名：橋村 忠一

住所：〒495-0033 稲沢市祖父江町四貫 131 番地

TEL/FAX：0587-97-2177 連絡時間 午後 8 時～午後 9 時

E-mail：c.hashimura@gmail.com

こども環境管理士
Kids' Environmental Facilitators



What is biotope ?

特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会のホームページから以下に引用させていただきます。

ちょっと前まではなかなか会話にも出てこなかった「ビオトープ」という言葉。今では誰もが違和感なく受け入れてくれてますね。最初は環境保全や野生生物保護に取り組んでいる専門家の人たちが使っていた言葉のようですが、最近では、一般に広く言われるようになり、いろいろな意味で使われるようになりました。

ビオトープについて多くの人を知るようになったのは良いことですが、今では意味がたいへん多様化しているようです。よくビオトープって？という質問に対して、— 生命：バイオ bio と場所：トポス topos の合成語で生物の生息空間のこと— という答えを耳にしますね。では、もっと具体的にビオトープってなんだろうと考えてみましょう。

たとえば、シオカラトンボが卵を産み、ヤゴが育つ小さな池は、シオカラトンボのビオトープといえますね。でも、トンボは小さな池だけで一生を過ごすわけではないので、成長段階や季節ごとに様々なタイプのビオトープが必要になってきます。すると、ややゴの小さなときの小さな池もトンボになってからの生息域も全てビオトープということになってきます。そこで、もう少し大きく考えていくと、トンボが飛んでいく森林や湖沼、草地 河川 湿地 十湯 岩場 砂地なども、その地域に住むさまざまな生き物が地域固有の自然生態系を構築していればすべてビオトープといえるわけです。

このように小さなビオトープから大きなビオトープまで、また、比較的自然度の低いビオトープから、自然度の高い多様なビオトープまで多くの解釈がなされるようになってきました。「ビオトープながおか」は公園（憩いの場）型ビオトープです。

我が国でも多くの自然が破壊された今、残された貴重な生物生息空間としてのビオトープを保全したり、消失したところを復元、創出することがますます重要な社会活動になってきています。現在、この地区に生息しているメダカを地域の子供たちに育ててもらって増やす「ながおかメダカ里親事業」を実施しています。

